

審査の観点（事前評価項目）

① 事業趣旨等との整合性

- ・ 我が国の科学技術力の維持・向上に繋がるようなトップ水準の国際共同研究であるか。
- ・ 目標とする国際的なトップ研究コミュニティが明確に設定されており、事業趣旨に合致するものであるか。
- ・ これまでの国際頭脳循環等を通じた次世代研究者等の育成実績を踏まえて、適切な育成目標が設定されているか。

② 科学的・技術的な意義及び優位性

- ・ 独創性、新規性を有しているか。
- ・ 社会的ニーズに対応するものであるか。
- ・ 医療分野の研究開発に関する国の方針に合致するものであるか。
- ・ 医療分野の研究開発の進展に資するものであるか。
- ・ 国際的に高い評価を得る研究成果の創出が期待できるか。
- ・ 研究提案は健康・医療分野において高い水準のものであり、相手国側研究チームと国際共同研究を実施することによる相乗効果が期待できるか。

③ 計画の妥当性

- ・ 全体計画の目標と計画は明確であるか。また、年度ごとの計画は具体的なもので、かつ実現可能であるか。
- ・ 日本側研究チームと相手国側研究チームの役割分担は明確で研究期間を通して実現可能な計画となっているか。
- ・ 国際ネットワーク構築・拡大に向けた計画は適切か。（目標とする国際的なトップ研究コミュニティの構築・参画・発展を目的として、適切で具体的かつ実現可能な計画が立てられているか。）
- ・ 国際頭脳循環の促進に資する次世代のトップ研究者の育成戦略は適切であるか。（規模に応じて適切な数の研究者が渡航あるいは招聘される計画となっているか。また、滞在先での役割や期間等が具体的であり、研究機関の受け入れおよび支援体制は整っているか。
- ・ 生命倫理、安全対策に対する法令等を遵守した計画となっているか※

④ 実施体制

- ・ 研究開発代表者および相手国研究開発代表者は国際トップサークルにおける研究実績、トップ研究コミュニティにおける交流実績、若手研究者等の人材育成実績を有しているか。
- ・ 日本側研究チーム構成は事業目的の達成や成果の創出を見据えた体制となっているか。研究交流を担う研究参加者が含まれているか。エフォートは適当であるか。多様性への考慮がなされているか。

⑤ 所要経費

- ・ 経費の内訳、支出計画等は妥当であるか。
- ・ 公募趣旨に沿った研究活動を遂行する上で、十分な研究資源（研究資金、人的・物的資源等）を備えているか。（直接経費総額の5割以上を国際ネットワークの構築・拡大や、次世代のトップ研究者の育成を目的として使用する予算計画が立てられているか。）
- ・ 海外派遣研究者等の人材育成に十分な予算が確保されており、適切な予算計画がたてられているか。
- ・ 海外の優秀な人材を適切な待遇で受け入れる予算計画が含まれているか。

⑥ 事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目

- ・ 研究開発終了後もトップ水準の国際共同研究が継続し、我が国の科学技術力の維持・向上が期待できるか。
- ・ 研究開発終了後も国際的なネットワークとして継続・拡大することが期待できるか。
- ・ 研究開発終了後もトップ研究コミュニティにおいて人材育成の継続が期待できるか。
- ・ 研究交流および共同研究は両国において対等な計画となっており、また相互に裨益するものであるか。片方が他方の隷属的な関係となっていないか。